静岡県議会議員・自民改革会議

加藤もとあき

動けば、変わる！

県議会レポート Vol.6

アフターコロナの経済政策を進める！

Ⅰ 10月県議会本会議で川勝知事への一般質問を行いました！

新型コロナウィルスの終息が見えない中、県議会は今年2月の緊急コロナ対策補正予算以降、度重なる対応や支援策を予算化し、これまでの総額は約1200億円に上ります。

一方で、県税収入は、経済の落込みにより、令和2年度頭初予算4,870億円から約300億円減収となる見込みで、県は事業の見直しや延期を検討していますが、課題は来年度以降の経済回復。

そこで、今回の一般質問では、主に県東部地域の経済・観光に資する政策課題を中心に取り上げ、知事および当局の考えを質しました。

加えて、ライフワークとしての動物愛護＝犬猫殺処分ゼロに向けた取組状況も質問。今後とも、ウィズコロナの状況下、県民の皆様が豊かに安心して暮らしていける県政を目指し、頑張って参ります！

① トヨタ自動車 世界1の未来都市「コネクティッド・シティ」に注目！ 県東部の産業振興、企業誘致、人口増加の切り札として県が積極的な対応策を！

「コネクティッド・シティ」とは？

本年1月発表の「コネクティッド・シティ」は裾野市のトヨタ自動車東日本株式会社の東富士工場跡地＝東京ドーム15個分に社員2,000人が生活しながら、最先端の自動運転、ロボット、人口知能、スマートホーム技術などを導入し、それらを検証できる世界1の実証都市を創るもので、現在、世界に向けパートナー企業を募集し、多くの反響があり、早くも2021年初頭から建設工事に着手！

（トヨタ自動車HPより抜粋）

知事への質問！

このプロジェクトの波及効果はとても大きい。周辺市町へのパートナー企業の立地促進や定住人口の拡大、世界中から最先端の技術者や関係者の来訪が見込まれる。

県は、このプロジェクトを核として、どのように東部地域の産業戦略や地域づくりを考えていくのか、また、トヨタとの連携をより深めていくべきと考えるが、どう考えているのか？

県の答弁内容

このプロジェクトに対し、県庁内に部局横断的な対応専門チームを組織し、道路やライフライン、医療、教育、研究開発環境の整備などに迅速に対応していく。

これを核とする東部地域の産業戦略や地域づくりは、トヨタの具体的な計画内容を踏まえ、産業や地域へのシナジー効果が発揮されるよう対応を進める。

例えば、ファルマバレープロジェクトが推進する医療城下町構想との連携や豊かな自然・観光資源を活かした学術会議の誘致のほか、子弟教育のための国際的な教育施設の検討などを精力的に進めていく。

トヨタ自動車との連携は、1月の川勝知事と豊田社長とのトップ会談後も実務的な協議を重ねており、今後とも情報交換等を密にしながら、地域が共に光り輝く、世界的なイノベーション拠点の形成に全面的に協力していく。

答弁に対する要望

このプロジェクトに関しての新たな企業立地や移住、定住者に対してのインセンティブ＝優遇策を是非検討し、来年のトヨタ自動車の事業着工に併せて発表して欲しい。具体的には、企業に対しては補助金の上乗せ、移住者に対しては例えば県産食材の年間プレゼントなど。県東部地域を世界にPRする絶好のチャンス！

② 東部の観光振興に向け、観光型ＭａａＳ（マース）の更なる活用を計るべきでは？

「MaaS」とは？（マース=Mobility as a Service の略）

出発地から目的地まで最適な移動手段を提供する考え方。スマートフォンで、移動手段の検索、予約、決済を一括して行い、飲食店、宿泊予約や、割引クーポンも取り込み、利用者には、大変利便性が高く魅力的。

JR東日本と東急は静岡県も含めた実行委員会を組織し、バス、タクシー、レンタカーを使用しての観光型 MaaS の日本初の実証実験を昨年および今年、伊豆で２回実施。２回目では MaaS が使える観光推奨ルートを拡充し、アプリの使い勝手を向上、観光施設、宿泊施設のデジタルパス利用、下田市内での AI＝人工知能を活用し、時間に無駄が無く、最適なルートを走るオンディマンド型の乗合バスの運行も実施。

知事への質問！

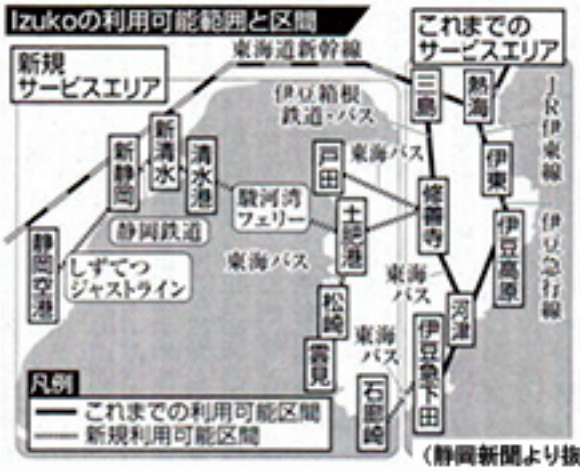
高い利便性とお得感のある MaaS システムの充実は、東部・伊豆地域への誘客への大きな呼び水になると考えるが、その**３回目となる実証実験が本年 12 月～３月に行われる**とのこと。

３回目となる実証実験に向けての**課題、改善点をどのように認識し、県として取り組んでいく方針なのか？**

県の答弁内容

11 月下旬から実施の実証実験では、**対象エリアを西伊豆地域や中部地域の一部にも拡大し、富士山静岡空港から空港アクセスバス、駿河湾フェリーを利用して伊豆地域を旅行できるデジタルフリーパス等を加える。**

併せ、伊豆の伝統や食材等を活用した体験コンテンツを開発し提供。県としては、非接触で、円滑かつ切れ目のない移動で周遊を可能とする観光型ＭａａＳを活用してデジタル技術を活かした観光地域づくりを推進し、観光需要の回復を図る。



（静岡新聞より抜粋）

③ 沼津市原地区の新貨物ターミナル整備工事をどう進めていくのか？

知事への質問！

沼津駅の鉄道高架事業は、1日でも早い完成が望まれているが、その前提となる新貨物ターミナル整備工事は、用地取得の目途も立ってきたことから**極力早い工事着手を期待。今後、県としてどのように進めていくのか？**

県の答弁内容

新貨物ターミナル整備工事は、ＪＲ施工の本体工事のほか、ターミナルへのアクセス道路や交差するアンダーパス道路の新設工事等あり。騒音対策などターミナル開業後の地域住民の生活環境を保全する工事も必要。

現在、**新貨物ターミナルの取得済み用地**では県と沼津市が連携して**埋蔵文化財調査を実施しており、令和３年度には全ての用地調査が完了見込み**。

関連工事では、既に市が**アクセス道路の整備を進め、アンダーパス道路**も円滑で安全な工事のための工法や工区割等について**県と市が鉄道事業者と協議中**。

騒音対策は、県が現地での試験等を行い、住民意見を伺いながら**防音壁の効果や影響等について検討中**。

県としては、引き続き、住民への丁寧な説明と対話を行うとともに、鉄道事業者など関係機関との協議を円滑に進め、新貨物ターミナル本体工事の早期着手に向け全力で取り組んでいく。

答弁に対する要望

早期の工事着工に向けて、JR との着工協議を並行して開始し、工事協定の締結を進める様に要望。

④ 沼津港のにぎわいづくりをどう進めていくのか？第一市場の建替えは？

知事への質問！

沼津港は年間約 166 万人が来訪。その賑わいづくりは、「沼津港みなとまちづくり推進計画」に基づき、県・市・民間が連携して施設等の整備を行っているが、**県が進めている西側緑地（倉庫跡）の整備は、用地買収が進展しているものの、具体的な整備内容が未定。**

また、**耐震性能が劣り、早期に改築が必要な第一市場**は、沼津港の中心に位置し、観光に活用できるとともに、**津波避難施設**としての機能や、慢性的に不足の**駐車場機能**の増加などに対し、地元の期待が寄せられているが、**関係者間での協議の進展が見られず、未だ具体的計画になっていない。今後の県の取組方針や、市および民間事業者への支援の考えは？**

県の答弁内容

現在、**内港東側**では遊覧船等が利用する**浮桟橋の設置を進行中**。

西側は「びゅうお」へのアクセスを改良し回遊性を高める新たな**緑地整備を来年度から着手**するが、この緑地は R5年度に沼津港で開催される、海の幸を楽しむ「Ｓｅａ（シー）級グルメ全国大会」に利用される予定。当面は、固定的な建築物を設置しないで開放的な空間とし、イベント、オープンカフェ、マルシェなどの利用により水辺の緑地としての魅力を高めていきたい。大会後は、民間活力を導入した施設整備の可能性を検討していく。

第一市場の整備は、地域で適切な事業実施者の選定や具体的事業内容について調整中だが、**県もこの期待の高い施設整備が着実に推進される様、関係者間の調整に向けた的確な助言や事業計画における公的支援の活用などを含めた協力に努める。**

⑤ 犬・猫殺処分ゼロに向けた取組みの進捗状況はどうなっているのか？

知事への質問！

動物取扱業者の**犬の販売**は、**経済的、家庭的に飼育能力のある人に対してのみ販売する仕組みの構築が必要**。保護犬の新たな飼い主探しを担っている**ボランティア団体の負担低減を昨年要望したが依然変化が無い。**

県東部保健所では、庁舎から離れた無人の保護管理所が設置され、老朽化も進み、譲渡を進める上で効率が悪く、飼育面でも課題がある。

県動物管理指導センター（浜松）も同様に老朽化しており、**命をつなげるための施設への転換を含め、改築、移設が必要。**

県の動物取扱業への適正販売の指導強化の取組状況、ボランティア負担低減への取組方針、動物管理指導センターの今後の展開方針について伺う。

保護された犬猫の譲渡会を定期開催@沼津市役所

県の答弁内容

県は、動物取扱業者に対し、保健所の研修会や立入検査の際に法改正による**動物取扱責任者の資格要件の厳格化など規制強化に基づく指導を徹底**。また、飼育能力のある人への販売を進めるため、**終生飼育を約束する宣誓書**の案を県で作成し、購入を希望者に署名をもらう様、取扱業者に強く要請している。

動物愛護ボランティアの負担低減は、今年度策定する「県動物愛護管理推進計画」において**ボランティア活動への支援を主要施策として掲げ**、今後、様々な得意分野を持ったボランティアの方々と協働できる環境づくりに取り組むことで負担低減を図りながら譲渡促進に努める。

老朽化した**動物管理指導センター**については、従来の殺処分施設から命をつなぐ施設への転換を図るため、今年度、有識者やボランティア代表者等と共に「人と動物の共生推進のための拠点検討会」を開催し、他県の事例も参考に**他施設との合築や併設**など、整備方針や運営体制について広く検討を進める。

知事への再質問！

昨年法改正が行われ、販売時に購入者情報が入る**マイクロチップを体内に埋めこむことが義務付**られた。現状、保健所に保護された犬の3割は飼い主が見つからないが、マイクロチップによりこの3割は飼い主へ返すことができる可能性が非常に高まる。これを**徹底してやっていくために業者にどのように指導していくのか？**

裏面に続く⇒

県の答弁内容

「犬・猫の販売業者へのマイクロチップの装着及び情報登録の義務化」は R4年6月1日の施行に向け、保健所が動物取扱責任者研修会、そして施設への立入検査で改正内容の周知及び導入に至るまでの指導を行っている。施行後の立入調査においては、法令遵守されていることを更に確認をしていく。

新たな動物管理指導センターの設置について要望

県の新たな動物管理指導センターの建設、設置について、その場所の要件として、子供たちが動物と触れ合えたり、ボランティアが支援出来易い様に、交通便利な市街地とするのが他県の傾向。沼津市の現貨物駅移転後は防災公園化の構想もあるようだが、そこに合築で整備することも検討して欲しい、と要望。

Ⅱ 10月県議会産業委員会：県温水利用研究センター（旧栽培漁業センター）整備は？

沼津

産業委員会での質問！

温水利用センター沼津分場は、マダイ（90万尾）、アワビ（45万個）等の採卵、稚魚の育成を行い、県内各地に放流して水産資源の維持・増大、沿岸漁業振興に寄与しているが、施設整備後 40 年以上経過で老朽化が進行し早急な再整備が必要。R2年度より実施設計、R6年度新施設供用開始予定だったが、新型コロナウィルスの税収落込み等により整備を見直すこととなったため、漁業者等への影響などを含め、今後の施設整備の方向性について質問。

県の答弁内容

国による次期栽培基本方針が来年度示されることを受けて、県として次期栽培漁業基本計画を策定し、改めて整備に着手することとする。その間、老朽施設は先行して整備し、生産量は減少させないように対応していく。

Ⅲ 県東部農林事務所主催の農業振興に係る先進事例視察に参加！（10 月）

東部地域での先進的な農業取組事例について以下4か所を視察しました。

①函南町における農泊推進協議会の取組み
⇒「食」、「農体験」、「泊」を組合せた宿泊受入れ体制を推進中

②ICT 活用の水田の水管理システムの実証
⇒自動給水栓と水田センサーによる水管理システムにより労力大幅低減へ

③AOI-PARC モデル実証のトマト給液制御システム
⇒県先端農業研究 AOI-PARC 開発の高糖度トマトのかん水制御装置の現場実証試験を民間農業者が受託

④箱根西麓の畑地整備と生産状況
⇒畑への乗入れや作業効率向上に向けて狭小・急勾配な農道の拡幅改良整備を進行中

どれも次世代を見据えた農業振興策を県が支援しながら積極的に行っており、大変参考になりました。特に、販売好調な箱根西麓野菜の生産は、箱根山麓の広大な土地の区画＆道路整備を県が行い、上手に活用して効率化を計ると共に、若い世代の農業者のネットワークを構築し、大切に人材育成している点が印象的でした。

沼津市内の農業振興にも是非活かしていきたいと思います！

県民の皆様の様々な取組みやご意見、ご要望を是非お寄せ下さい。
コロナに打ち勝ち、豊かな県政発展に向け、積極的に行動して参ります！

加藤 元章（もとあき）プロフィール　昭和 38 年 11 月 9 日 旧原町生まれ

- 静岡県立富士高等学校卒業
- 早稲田大学 政治経済学部卒業
- 三菱自動車工業(株)東京本社勤務（商品企画マネージャー）
- H15 沼津市議会議員初当選、以降 4 期連続当選
- 各常任委員会 委員長歴任、第 94 代副議長
- H30 沼津市長選挙挑戦
- H31 静岡県議会選挙初当選、自民改革会議所属

加藤もとあき事務所

TEL 055-962-3190
FAX 055-960-9720
〒410-0036
沼津市平町24-4-902
E-mail : motoaki-kato@npo-stds.com
HP : http://www.motoaki-kato.net